

むぎの郷

通信

“麦の郷とは” 住民のニーズから
生み出され、住民の手によって育てられる

January 2024

こじか園/第二こじか園/はぐるま共同作業所/はぐるま共同作業所 和の社/はぐるま共同作業所 ラ・テール/麦の郷印刷/ソーシャルファームピネル/むぎピース/ソーシャルファームもぎたて/meglück(メグリユック)/六星舎/叶夢向/麦の郷 和歌山生活支援センター/麦の郷 紀の川生活支援センター/障害者就業・生活支援センター つれもて/くろしお作業所/麦の郷訪問看護ステーション/麦の郷居住福祉事業所/ハートフルハウス 創/事務所/ゆめ・やりたいこと実現センター/ちいき暮らしサポートセンターわかやま/Rework支援センターANEW/麦の郷障害者地域リハビリテーション研究所

揮毫：伊藤静美 発行/麦の郷情報管理委員会 TEL(073)474-2466 FAX(073)474-4637
〒640-8301 和歌山市岩橋643 <http://www.muginosato.jp>



むぎピース

1月4日(木) 宇須井原神社 初詣



叶夢向

1月4日(木) 伊太祁曾神社 初詣



くろしお作業所

1月4日(木) 力侍神社 初詣



麦の郷 紀の川生活支援センター

1月8日(月)「作業所ボランチ」さんの「おでん」と、
「LeGAME (ソーシャルフットボールチーム)」の皆さんとパチリ!

私たちのめざすもの ~麦の郷4つの理念~

- 1).麦の郷は、日々学び、育み、発信し続ける人材を育成し、地域福祉の発展を目指します。
- 2).私たちは、ものづくりを通じて障害のある人と地域の共存を実現し、互いに豊かになる実践を目指します。
- 3).私たちは、社会的不利の状態におかれている人々の課題を解決するために、広範な人々をつながりをもとめ、ともに社会変革をめざします。
- 4).麦の郷は、全ての人々が平和で安心して暮らせる社会づくりのために人の輪を紡いでいきます。

あけまして おめでとうございます

2024年の幕開けに際し、ご挨拶申し上げます。
私は、昨年4月より電動車いすの生活を始めることになりました。私の車いすの名前は、「まんまる号」といいます。私の孫が、一時期私を「まんまるじいじ」と呼んだことがあり、その名前が大好きになり、電動車いすにもその名前をつけました。

「まんまる号」の生活は、けっして「まんまる」な日々ではありません。ちょっとした段差をうまく乗り越えることができない彼に放り出されることが珍しくありません。ただ、社会が大きく変化しているのを、「まんまる号」の気分で知る日々を送っています。彼と共に、京都まで週2回通っていますが、JRの駅員や市バスの運転手は、彼を電車やバスに上手に誘い入れるのです。「スロープ介助」というそうです。JRでは、駅に着くと「スロープ介助必要ですか」という言葉がけをされ、市バスでは、バス停で手を上げますと運転手が心地よくスロープ介助をおこなって下さいます。障害者が社会に参加する為に社会が大きく変わりつつあるのです。

しかし、障害者を含めた私たち日本人は、まだまだ生きやすい社会を手に入れているとは言えません。現代の日本は、非正規雇用の拡大により、所得格差が急速に広がっています。そこにあるのは、いったん貧困のワナに陥ると抜け出すことが困難な「貧困強制社会」

です。また、2023年4月に誕生したこども家庭庁は、こどもの最善の利益を第一として、こどもの視点に立った当事者目線の政策を強力に進めていくことを目指し「こどもまんなか社会の実現」を最重要コンセプトとして掲げていますが、現実とはなっていません。2023年10月には、不登校が10年連続で増加して過去最多となったと報道されました。また、いじめの認知件数や暴力行為も過去最多となっています。子どもから大人まで生きづらい社会がここにあります。



2024年こそ、私たちが生きやすい社会を築いていきたいものです。その為に、なによりも必要なのが、どんなに重い障害をもっていても、何十年ひきこもっていても、貧困のさなかにあっても、誰ひとり取り残さない社会を築き上げる私たちの根強い願いとそれを実現する運動です。「幸せになりたい」との思いを実現する為に、私たちは、共に歩み続けなければなりません。2024年、私たちが、私たちの権利を護り、「幸せ」を実現する為に、共に一歩前進しましょう。
(社会福祉法人一麦会・麦の郷理事長 山本 耕平)

よさのうみ福祉社会見学



11月17日(木)、18日(金)にわされん生活・グループホーム部会が企画した、京都よさのうみ福祉社会の見学研修がありました。

のモデルへと発展しました。対応してくれたスタッフの「福祉のコンビニがモットー」という言葉からは、洒落ではなく本気が伺えました。

子どもと交流することで高齢者が元気になったり、障害のある仲間が施設外就労で高齢者住宅の掃除などをおこなっていると、元気がないと心配してくれたり、逆に掃除のお礼を言われることで労働の実感を得られているなどの報告もありました。特に感銘を受けたのは、障害のある仲間が介護事業所で認められ、一般就労に結び付いたことでした。

和歌山で大きな施設は無理でも、わされんの会員と互いに助け合いながら、発展し合えるつながりを築いていけるよう取り組んでいきたいです。

(麦の郷居住福祉事業所 武田 賢二)

した。京都北部の与謝野郡にある地域共生型福祉施設「やすらの里」では4カ所の法人が話し合い、高齢者施設、障害者就労支援事業所、訪問看護事業所において、手厚い高齢者・障害者支援を実現しただけでなく、必要性から企業内保育所なども手掛け、まさに共生型

麦の郷の年男 今年の抱負



叶夢向
藤本 数馬

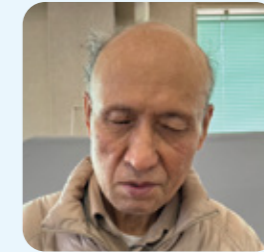
麦の郷で2回目の歳男を迎えました！
今年も楽しく頑張ります。



副理事長
田中 秀樹

「辰年は最も幸運で最も繁栄し、前例のない機会に満ち、また、創造性と情熱を解き放ち、勇気と自信をもって夢を追い求める年でもある」との解説を発見。

何回と繰り返してきた歳男。まだ「夢を語り、前を向いて生きる」年にしたい。



くろしお作業所
道本 昌利

72歳になりました。まだまだくろしおで仕事頑張っていきます。



ソーシャルファーム ビネル
佐藤 出

体調に気をつけていきたい



むぎピース
廣瀬 亘

今年もアートの「わ」の会に3月14日から18日に県民文化会館にて絵を出展します。見に来てくださいね。



叶夢向
成田 茂雄

今年も健康に仕事頑張ります。



叶夢向
田村 達矢

今年も頑張ります。

山口文化祭



11月5日(日)の山口文化祭でこじ

か園の5歳児の子どもたちは、運動会で披露した竹太鼓を演奏しました。当日までに2回、山口小学校に行かせてもらい、リハーサルをしました。リハーサルを山口幼稚園のお友だちやこじか園の卒園児、山口小学校の校長先生が見に来てくださり、“お客さんだ”とこじかこたちは、少しお話ししたり、ふれあう時間に

もなりました。リハーサルを含め、運動会後から、さらに積み重ねてきたこともあり、たくさんのお客さんがいる中でも、自信を持ってリズム打ちをしたり、音や周りの雰囲気を感じて緊張したり、笑顔浮かべていました。またひとつ、子どもたちにとって自信につながる日になったかなと思います。かかしコンテストでは、なんと5歳児の親子で作ったかかしが『なかよしこよし賞』を受賞しました。こじか園らしい、あたたかい賞に嬉しく思います。

山口地区の方々が、地域の子もたちと同じように、こじか園の子どもたちにも声をかけてくださったり、温かく見守ってくださることを嬉しく思い、こじか園

第23弾障害者週間・広がれネットワーク

那賀圏域の障害者週間・広がれネットワークも今年で第23弾を迎えました。なかまや家族、地域の人たちと実行委員会をつくり、「障害のあるなしに関わらず誰もがあたりまえにこころ豊かに生活できる社会の実現」を目指して、毎年アート展や研修会、講演会などを企画し、なかまの表現の場や人が集い学び語り合える場、地域への啓発など様々なイベントを行っています。

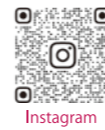
今年はコロナ行動制限の緩和にともない「みんなが集い、顔をあわせて学び楽しめる場をつくりたい」という思いから「広がれフェスタ」を初めて開催し、実行委員もふくめ150名程の人が会場に集いました。第1部の「広がれコンサート」では貴志川中学校の吹奏楽部による楽しいクリスマスソングの演奏でオープニングをかざり、放課後等デイサービス青空のエイサー演舞、ゆめ・やりたいこと実現センターのなかまによるウクレレ演奏、紀の川生活支援センターの歌が披露され、笑顔のこぼれる和やかな時間となりました。第2部の紀の川市精神障害者家族会(ゆかいな会)の20周年記念講演会では、「住み慣れた地域や家庭で生活したい～精神障害者を支えるために～」と題して、京都の相談支援事業所しほふあーれ所長の金井浩一さんよりご講演いただきました。現代社会において大切なのは“Doing”(～している)の社会的価値観ではない、“Being”(存在)を支援するという視点であること。また、大切な姿勢は“for”ではなく“with”であり、「聞く」という行為から始まるのだと話されていました。その後グループワ



クでは参加者同士が地域でこういった支援や関わりが必要であり自分たちでつくっていけるのかななどについて語り合われました。会場ではメグリック、創caféなどの物品販売も行われ、こどもの遊び場やウクレレ講座、手作り紙芝居なども披露されました。

当日に向けて、地域活動支援センターでは歌と紙芝居の練習、会場の花かざりの制作など連日なかまのみんと力をあわせて準備をすすめてきました。実行委員会だけでなく、外部から多くの方々のご協力をいただき開催することができました。様々な分野の人たちと共に手をつなぎ、同じ目的をもち、ひとつのものをつくりあげることが容易なことではありませんが、こういった関わりが「誰もが暮らしやすい地域づくり」へとつながっていくのだと実感しました。

毎年恒例の企画である「みんなの願いを語る会」「広がれアート展」「夜のリモート研修会」も多くの皆様にご参加いただき良い交流の場となりました。詳細はインスタをぜひご覧ください。(麦の郷紀の川生活支援センター 石橋 由季子)



Instagram

国保野上厚生総合病院附属看護専門学校様より

ご寄付を頂きました

12月4日(月)、国保野上厚生総合病院附属看護専門学校様より、10月14日(土)に開催された学校祭の収益の一部をご寄付頂きました。

学校様からは、2年前よりくろしおへ地域支援実習の受入れをさせて頂いておりました。そして、新型コロナ5類となった今年の9・10月に、計12名の実習生がくろしおで仲間と一緒に活動に参加しました。緊張してこわばった表情の皆さんでしたが、仲間からのアプローチに次第に打ち解けて笑顔がみられるようになりました。

実習後のカンファレンスで、この実習を経て障害を持つ方への理解を深めてもらい、これから皆さんが目指す医療の現場でぜひ活かしてもらえるようお話をさせて頂きました。地域支援実習の目標の1つ「障



害を持つ方が、地域での生活において、必要な支援について考える」の参考にいただければ幸いです。

学校祭ではくろしおの商品の販売もお誘いいただきました。

学校長様始め、お声かけを頂いた先生方の皆様本当にありがとうございました。今後ともよろしくお願いたします。(くろしお作業所 城 喜貴)

共に学び、生きる共生社会コンファレンスを開催しました。



2023年11月29日(水)【第1部】学び合うそして創り合う【第2部】和歌山大学特別支援教育コーディネーターフォーラムをオンラインで開催。北海道から沖縄

まで180名以上の参加者(過去最高の参加人数)があり、「ゆめ・やりたいこと実現センターの活動から学びたい」という熱気を感じるコンファレンスでした。特に2部では、参加者・サポーター・講師などから活動について語っていただきました。「温かく楽しい雰囲気が伝わってきた」「いきいきと過ごせる居場所が自分たちの地域にできてほしい」などの感想がたくさん寄せられました。これからは障害のある人たちの夢や希望を叶えられるように、地域のみなさんと共に学び、創り、活動していきたいと思ひます。

(ゆめ・やりたいこと実現センター 尾方 千春)

むぎ・わくわくレポート21



我がソーシャルファームもぎたてでは、メンバーやスタッフと共に様々な個性ひかる方々がいて、コミュニケーションが難しかったり、心の声を大きく溢れさせる方々がおられます。そんな彼らと機械音や会話ではない話し声が響く中で一緒に作業や休憩をし

ています。そのもぎたては少し標高の高い場所にあつて、皆の通勤の道中はアップダウンやカーブが続く山々の景色に季節を感じられるほど自然が豊かな場所にあります。自然に恵まれた中で、空を見上げては天候の事などでメンバー達と会話が弾むこともしばしば。普段はあまりコミュニケーションがとれなくても、自然の力で会話ができることもあります。そんなほっこりさせてくれる場所と時間が楽しいです。

(ソーシャルファームもぎたて 西浦 尚子)

障害のある人とのつなぎ役になれば @民生委員見学会



紀の川市打田地区の民生委員児童委員協議会の方々が、もぎたて、創、紀の川生活支援センターの見学に来てくださいました。民生委員の方々は、紀の川生活支援センターで開催したボランティア講座も受講してくださいました。今後も、地域福祉を支えてくださる民生委員の方とも協力し、誰もが住みよい地域づくりに取り組んでいきます。

(麦の郷紀の川生活支援センター 行年 詩織)

日曜親子保育・秋まつり



11月に、第二こじか園で初めての秋まつりを行いました。雨がこぼれる中での開催となりましたが、親の会をはじめ、はぐるま共同作業所や和の杜から出店協力いただき無事に終わることができました。普段園へ来る機会のないきょうだいや、仕事などで来られない保護者と一緒にゆっくり楽しく過ごす時間となりました。

(第二こじか園 中谷 愛)

こじか園でおとまり保育



10月27日(金)、28日(土)にかけて、5歳児13名の子どもたちがこじか園でおとまり保育をしました。午前中は、こじか園周辺の山を探検したり、午後からは、買い物、夜ご飯は、カレーのクッキング、花火…様々な活動をしました。帰れなくて泣く子どももいるかもと心配しましたが、帰りたがる子どもはなく、たっぷり活動を楽しみ、夜はぐっすり眠っていました。お家の人と一晩離れて過ごした経験は、子どもたちや保護者にとっても大きかったと思います。

(こじか園 滝本 容子)

わされん北部スポーツ大会に参加！



11月24日(金)に琴の浦体育館で行われた、わされん北部スポーツ大会に参加しました。

ポッチャとペットボトルボリングの2種目があり、むぎピースはポッチャを選びました。ポッチャは3人で1チームだったので、むぎピースから2名、あすのあの仲間1名の合同チームとして参加。14チーム中4位と大健闘で「また参加したい。次は優勝したい」「楽しかった」と久しぶりに他事業所の仲間と集まってスポーツを楽しみました。

(むぎピース 荒野 悠)

4年ぶりのラ・テール旅行



コロナが落ち着いてから4年ぶりのラ・テール旅行。2泊3日で山梨、長野、静岡に行ってきました。私は初めてのラ・テール旅行で変に肩に力を入れてしまい緊張しながらの参加となりましたが、いざ出発すると仲間の楽しそうな声や笑顔、勢いに緊張していたことなど忘れ、自分も旅行を楽しみ、普段の作業所では見られない仲間の姿を見ることができた貴重な時間になりました。

(はぐるま共同作業所ラ・テール 前田 昇馬)

笑顔溢れる麦の郷印刷B型レク



10月20日(金)に月化粧ファクトリーに行ってきました。みんな月化粧が作られる様子に興味津々。見学が終わるとできたての月化粧の試食もさせてもらって大満足。お買い物も楽しんでから、みんなお待ちかねの天ざるで焼肉バイキング。野菜も注文しバランスよく食べる人、ひたすらお肉を食べる人、食後にはデザートも頼んだりみんな思い思いに楽しんでいました。「美味しかった」と笑顔溢れるレクになりました。

(麦の郷印刷 山岡 愛)

一泊旅行に行ってきました



11月10日(木)～11日(金)に4年ぶりの一泊旅行へ、今回は『和歌山の魅力再発見ツアー』ということで勝浦方面へ行ってきました！

4年の間に新たに和の杜に通所が始まったなかま達は初めての旅行に少し緊張？の面持ちでしたが、ホテルでの食事や温泉、カラオケ大会、雄大な那智の滝や太平洋の荒波に揉まれながらの船旅を共に過ごしたことで、またちょっぴりと仲が深まったように思います。

(はぐるま共同作業所和の杜 大末 翔平)

2023年も、がんばりました！ みかんの、楽しい収穫♪



11月25日(土)に、毎年、みんながとても楽しみにしている、みかんの収穫作業(紀美野町)に、行って来ました。天候にも恵まれ、みんなの笑い声や話し声が、みかん畑に響きわたっていました。収穫後、地域の方が買ってくださり、「安くて、甘い」と喜んでくれました。

(六星舎 岡崎 敏郎)

特別優良従業員賞を受賞!



昨年10月7日(土)、和歌山商工会議所における第75回わかやま商工まつりにて標記の賞を受賞されました。悦ちゃんこと、北村悦子さんは、麦の郷で31年勤務されているベテラン職員です。長くはぐるま共同作業所で仲間たちと共に働き施設長を経て、定年後の現在はグループホームの職員としていつも笑顔で仲間たちの生活に寄り添って来ています。悦ちゃん、今回の受賞おめでとうございます。これからもよろしくお願いします。
(法人事務局 鈴木 栄作)

パソコンのお礼



この度 Daigasグループはじまるくんパソコン寄贈プログラムに応募し、パソコン1台寄贈いただきました。職員に1台ずつのパソコンを整備することができ嬉しいです。むぎピースに通所してくれているメンバーの支援の取り組みに…実践記録に…活かしていきます。ありがとうございました。
(むぎピース 鈴木 悦子)

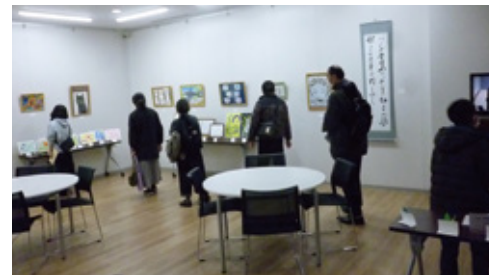
今年も和歌山城ホールで作品展をしました!

12月1日(金)から12月14日(木)、和歌山城ホール多目的室で『なかまの echo作品展2023』をむぎピースと合同で開催しました。

絵だけではなく、陶芸や2m程ある掛軸、たくさんの手形で作った花火などとてもボリュームがあり見ごたえのある作品展となりました。

多目的室はフリースペースとなっているので、勉強をしている学生さんや昼食を食べている人、パソコンで仕事をしている人等、多くの方が訪れ作品を見てくれました。

「また、次の回を楽しみにしています」「書も絵もとても素晴らしく、勇気をいただきました」「手形のお花がとてもステキ!!花火だった!」「心にクリスマスプレゼントを頂きました」など、たくさんの素敵な感想をいただきました。
(麦の郷和歌山生活支援センター 構口 大輔)



つながり文化祭4年ぶりに開催します!!

2月25日(日)に第47回 障害児者家族のつながりを広める文化祭を4年ぶりに開催することとなりました。

この文化祭は、障害児者の家族、学校関係者、福祉関係者を含む、多くの方がステージ発表、模擬店、展示、交流シークなどを通してつながりをひろめてきました。

今文化祭では、コロナの影響で開催が延期され、4年ぶりの開催となりましたが、会場をビッグホールへと移し、地域密着型アイドル「Fun×Fam」のステージなど、今まで以上にみんなが楽しめる企画を準備しています。

皆さん、来てくださいね!



(麦の郷印刷 長谷 理世)

